

舞鶴市の図書館と図書館協議会は、この基本計画に先立ち図書館の課題と解決の方向性を数年調査研究しました。基本計画では昨年度に、都市計画的観点かつ図書館政策的観点で「いまと課題」を再確認し、審議会体制となった本年度は、課題解決のために計画の協議を重ね、基本計画答申をまとめました。舞鶴市はこれを元に図書館基本計画とその概要版で「図書館ビジョン」を市民皆さんに開示しています。

1. 舞鶴市の図書館のいまを確かめる

- 居住人口の減少率を超える「市民の図書館利用の低迷」がついている。(登録率減少・貸出冊数減衰)

- 現代的切実な「社会の要求」と現実の「図書館サービス」とのズレが推測される。(格差・弱者支援・社会包摶)

- 「都市環境 / 市民のくらし」と「図書館サービス体系/体制」とのズレが推測される。(地域別の利用格差・身近さ)

- 「施設的な魅力として限界」(環境の広さ・収容力・老朽化・維持継続のための改修投資の有益性に疑問)

- 「資料・情報環境の深化」への対応の遅れが顕著になる。(低調な政策投資や資料費、職員体制構築、専門化育成)

- 図書館分館・学校図書館ほか「地域サービス拠点の充実策」の政策的関心が低かった。(市民からの信頼/需要の萎縮)

- 図書館政策投資効果、実績と図書館への市民的な支持共感に負のスパイラルが表れる。(政策投資と市民満足度相関)

- 図書館分館・学校図書館ほか「地域サービス拠点の充実策」の政策的関心が低かった。(市民からの信頼/需要の萎縮)

- 図書館政策投資効果、実績と図書館への市民的な支持共感に負のスパイラルが表れる。(政策投資と市民満足度相関)

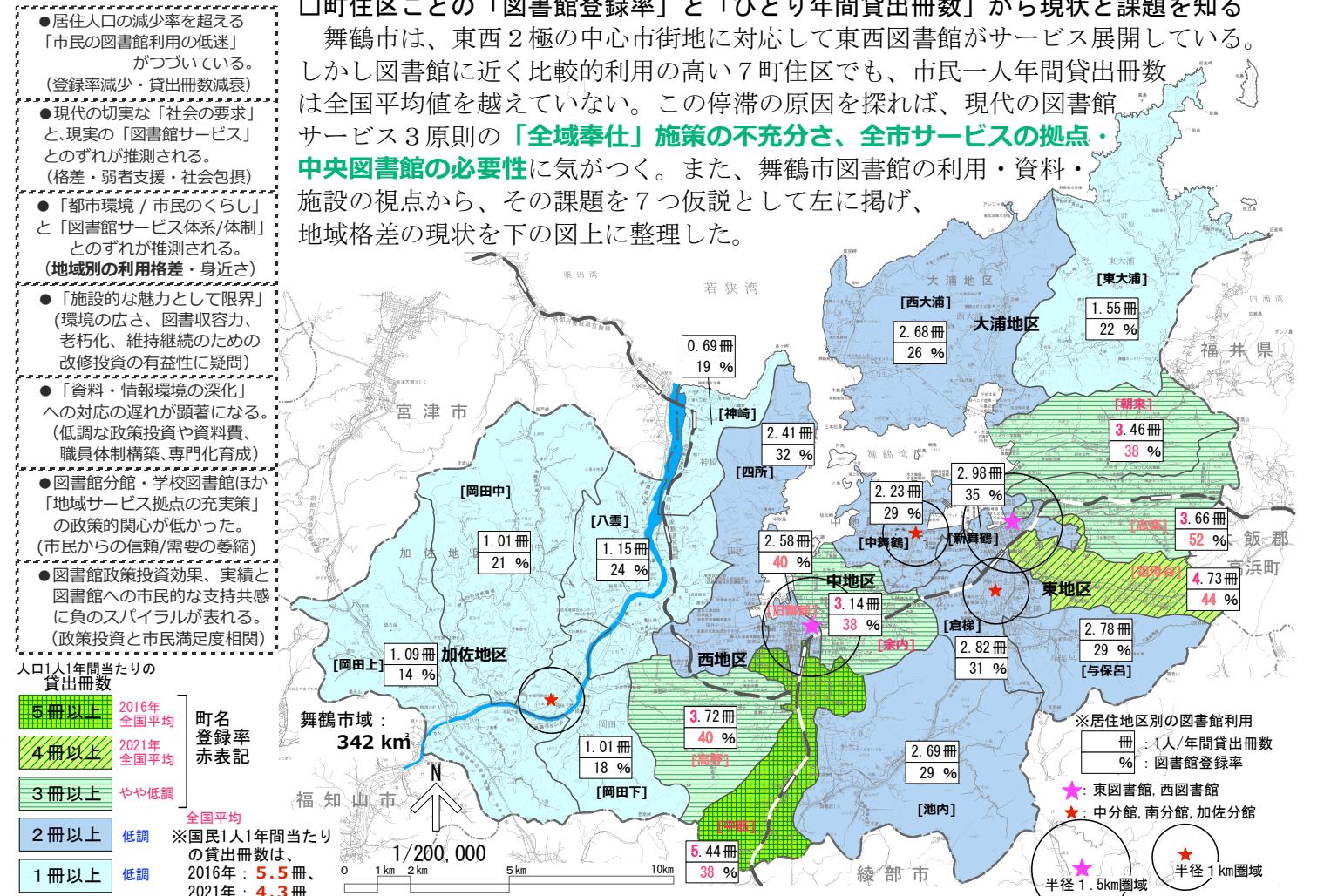
- 図書館分館・学校図書館ほか「地域サービス拠点の充実策」の政策的関心が低かった。(市民からの信頼/需要の萎縮)

町住区ごとの「図書館登録率」と「ひとり年間貸出冊数」から現状と課題を知る

舞鶴市は、東西2極の中心市街地に対応して東西図書館がサービス展開している。しかし図書館に近く比較的利用の高い7町住区でも、市民一人年間貸出冊数は全国平均値を越えていない。この停滞の原因を探れば、現代の図書館サービス3原則の「全域奉仕」施策の不充分さ、全市サービスの拠点とのズレが推測される。

中央図書館の必要性に気がつく

また、舞鶴市図書館の利用・資料・施設の視点から、その課題を7つ仮説として左に掲げ、地域格差の現状を下の図上に整理した。



2. どんな図書館であるべきか、舞鶴市民がのぞむ図書館をめざして

「図書館の本質性」を確かめた

- ライブラリー(図書館)システムだということ
- 成長する有機的な社会的しくみだということ
- だれもが、いつでも、自由に、包まれる場、都市の広場だということ

「図書館サービスの3原則」を展開させる

- <市民が資料情報に出会う> 貸出や市民の調査利用を支えることを重視します。

高度な専門的情報を蓄え、地域社会・地域生活に役立つ課題解決型図書館に脱皮する。

- <社会が支えるべき順番> 子どもや社会的弱者へのサービスを重視します。

多様な子どもたちや社会的弱者に向かう、多角的な包摶サービスを展開する。

- <ライブラリーシステム> 全市域全域へのサービス網の構築に取り組みます。

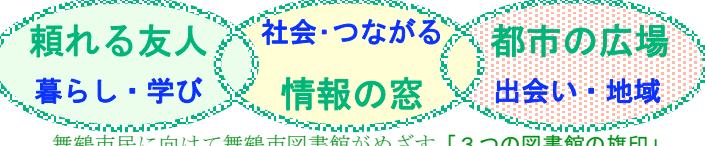
舞鶴市全域へサービスがつながる、図書館システムに再編していく。

近年の社会ニーズからも図書館を位置づけた

- 図書館は、市民のニーズに応えて「資料・情報への公正なアクセス」を確保し「学習・課題解決への支援」が使命である。
- 図書館は「社会教育機関」であることを超えて「社会的包摶の一翼」をになう。
- 「市民生活に関わり、社会とつながる場」であり、図書館のサービスは「社会経済の変動をとらえて、市民の情報ニーズに応える」
- また図書館は、「地方自治を支える体制や、地域そのものの活性化に寄与」して、「その帰属する地域社会をささえ」る

舞鶴市民がのぞむ図書館をめざして

- 舞鶴市民の、毎日の暮らしと学びに「頼れる友人となる図書館」
- 舞鶴の新しい時代をつくる「情報の窓となる図書館」
- 市民が出会い舞鶴の文化をつくりだす「都市の広場としての図書館」



舞鶴市民に向けて舞鶴市図書館がめざす「3つの図書館の旗印」

3. 新しい舞鶴市の図書館のあり方とサービスを計画する

● 舞鶴市の市民と地域へ、図書館がめざす「4つの約束」をかける

- 舞鶴市の図書館は、「子どもや社会的弱者をささえる」
- 舞鶴市の図書館は、「社会包摶の一翼をになう」
- 舞鶴市の図書館は、「社会の各種格差や課題に向き合う」
- 舞鶴市の図書館は、「京都北部広域連携の中核をになう」

舞鶴市の図書館は、市民がのぞむ図書館をめざし、約束をはたすために成長をつづける。そしてこの「図書館の成長」の源泉である4つの要素について、真摯にむきあう。

- (1) 人：図書館員/司書専門職： 知見、情熱、矜持、スキル(選書、ラファレスなど専門性)
- (2) 資料：本/もの/情報/こと： 資料費、基本図書量、新鮮な資料の量、資料展示表現性
- (3) 施設：場/建築/家具/環境： 本と人の居心地、機能性、可変性、広場性、市民性
- (4) 市民：利用者/主人/判定者： 友情、理解、寛容、学び続ける知見(行政と市民と図書館)

● 「舞鶴市をおおう図書館サービス網」を再編する

すべての市民に、適切な図書館サービスがつながるために、住民生活圏や地域拠点や移動手段を把握する。中央図書館や分館図書室や、自動車図書館のサービスポイントをネットワークして、おおきなまちづくりのように図書館システムを再編する。舞鶴市図書館整備を、建物や建設のことではなく、「社会システムデザイン」としてとらえて、このたびの図書館基本計画を4つの施策で組み立てる。

- (1) 舞鶴市の図書館システムのセンターとなる新中央図書館(人・資料・施設)を整備する。
- (2) 5地区に図書分館機能を「情報の蛇口」として定点配置して、連携と活性化する運営をめざす。
- (3) 地域サービス拠点・施設100箇所を想定して、自動車図書館(BM)を定期運行する。
- (4) 小中学校図書館の整備充実施策を支援し、ひとつの舞鶴市図書館システムとして連携する。

● 基本的図書館サービスの深化と高度で専門化された新しいサービスを提供する

これまでの日本の図書館で展開されてきた「基本的図書館サービス」(全域・子ども・貸出)についても、50年の蓄積を経てそれぞれ各地で発展や深化が続いている。舞鶴市図書館はこの方向性をめざす。

- (1)「専門性が深化し充実した基本的図書館サービス」
- (2)「全域奉仕・地域拠点支援・アウトリーチサービス」
- (3)「舞鶴全市図書館システムのセンター機能」
- (4)「多様な市民と活動を支えるサービスと場の提供」
- (5)「時代が求める高度で専門化された図書館サービス」

* サービスについての詳しい内容は「舞鶴市図書館基本計画審議会答申」本編をご覧下さい。

● 中央図書館への出掛けやすさ、アクセスしやすさを整える

- 中央図書館には自動車利用に十分な駐車場を整備する。
- 中央図書館へ交通弱者を支える公共交通システムを整える。
- 中央図書館に各方面からつながるバス路線再編の必要性を基本計画審議会は答申している。

● BM. 自動車図書館がとどける、地域へのサービス

- 全域奉仕のための自動車図書館(BM)サービスの運行を立ち上げたい。
- 図書館から遠い半分の市民に届くようにBMアウトリーチサービスを立ち上げたい。

● 小・中学校図書館の充実方策と公共図書館からの連携支援方法を提案する

- 学校図書館充実方策を立案し具体化する準備推進体制を立ち上げたい。
- 文部科学省 第6次「学校図書館図書整備等5カ年計画」で学校図書館の充実を立案したい。
- 公共図書館は、全市図書館システムとして学校図書館充実を支援したい。

● 京都府北部地域の広域図書館連携を推進する 具体的メニューを提案する

● 舞鶴市の図書館の達成したいサービス目標値と政策投資規模を提案する

- 中央図書館開館5年先の当初目標値、10年先の中期目標値の達成をめざします。
- 市民1人あたりの年間貸出冊数(貸出密度)、□登録率、□登録者1人あたりの貸出冊数(実質貸出密度)。
- 市民1人あたりの資料費、□市民1人あたりの蔵書冊数、□蔵書回転率、□1日あたりの平均貸出者数

